

2022A 期における SPring-8/SACLA ユーザー要望等について

登録施設利用促進機関

公益財団法人高輝度光科学研究センター
利用推進部

SPring-8 および SACLA では、各ビームタイム終了後に実験グループごとに「ビームタイム終了届」を提出いただいております。ビームタイム終了届には、次の利用者へのアドバイスや施設に対する要望、提案等を記入いただいております。

2022A 期における要望等の状況は下記のとおりです。これら要望等と、それに対する施設側の回答（内容により、必ずしも全てではありません）につきましては、User Information で公開されています。

1. 2022A 期 要望等全体概要

2022A 期	実施課題数	利用実験数 (報告書数)	うち、要望等コメントがある ^{*1} 報告書数		
			技術的 要望等	施設他 要望等	その他 (お礼)
SPring-8 共用BL	741	1,154	23	66	127
SACLA 共用BL	53	55	5		

^{*1} 「なし」「None」等のコメントを除く。

<SPring-8 共用 BL 技術的要望等 (計 23 件) の研究分野/手法^{*2} 別内訳>

分野 手法	生命科学 医学応用	物質科学 材料科学	化学	地球・ 惑星科学	環境科学	産業利用
小角・広角散乱		2				
X線回折 (単結晶)		1	1			
X線回折 (汎 用・構造評価)		1				
X線回折 (高圧)				1		
汎用 XAFS・ 汎用 MCD		1				
先端 X 線分光				1		
光電子分光		2				
赤外分光				1		
イメージング						1
非弾性散乱		1				
構造生物学	4					
その他		2	2			2

^{*2} 課題申請時の利用者申告ベース。

2. 2022A 期 要望等の内容 (一部抜粋)

(1) 技術的要望等

○ASC 測定中にはスリットサイズの変更ができないため、結晶性サンプルと非晶質性サンプルとは同時に測定できないことが難点でした。測定 PC とデータ吸出し用 PC の時刻を合わせておいて欲

しいです。

【物質科学・材料科学/X線回折 (汎用評価)】

○プレート測定とクライオピンの測定をユーザーでも切り替えできるような仕組みを可能であればご検討ください。実際、プレート測定が想定よりも時間がかかることや、低温条件での測定の必要と感じたため、両方が適時に切り替えができればと感じました。

【生命科学/構造生物学】

○特性X線を用いた試料のマッピング機能が有効であった。光電子によるマッピングも併用できるようなると実験精度が上がり、新たに実験できることが増えるので、期待している。

【物質科学・材料科学/光電子分光】

(2) 施設その他要望等

○食堂ラストオーダー時間が30分早くなりました。働き方改革かとも思いますが、ユーザーとしてはビームタイム開始が10:00であり、機器の調整などを行うと、13:30までに食堂に出向くのが難しい場合も多々あります。特に奥のビームラインの場合は大変です。LO14:00、利用14:30まで、くらいにできないでしょうか？

○食堂の質を改善して欲しいです。現状、高い(品にもよるが50~100円ずつ下げて良いぐらい)、品数が少ない、お世辞にも美味しいとは言えないと思いました。食堂を利用する人は、測定のために施設を訪れており、食事が一番の目的ではないことは承知しています。ですが、食堂で満足いく食事ができればリフレッシュできますし、より良い状態で次の測定に臨めるはずで。良い測定結果にもつながると思います。またコンビニの営業時間が短すぎます。測定をしていると装置から離れられない時間があるため、気づけば営業終了していることがありました。もう少し長くできないでしょうか。ぜひご検討の程お願い致します。

○AU、Softbankの実験ホール内での電波増強を望みます。緊急時に問題となると思います。

